

ニュース&トピックス

① ニツ井小学校児童が手刈りに挑戦 田植えした苗の生長を実感



▲ 刈り取った稲を運ぶ児童たち

子どもたちに、農作業を通じて「食と農」への理解を深めてもらおうと、JA青年部ニツ井支部が10月11日、ニツ井小学校五年生50人を対象に、稲刈り体験を実施しました。

圃場に到着すると、綺麗に色づいた稲穂の姿に、児童らは歓声を上げて稲の生長を実感していました。その後、青年部員の説明を受け、さっそく稲刈りがスタート。児童らは泥だらけになりながらも、稲を大事そうに抱えて、収穫の喜びを感じていました。

収穫した稲は精米後、学校行事の巻き寿司作りに利用され、子どもたちが「食と農」を実感できる取り組みとなっています。

① 錦秋のきみまちを彩る 第17回きみまちの里フェスティバル



▲ ランナーにスープを振る舞う女性部員

能代市ニツ井町の第17回きみまちの里フェスティバルが10月15日と16日の2日間、ニツ井町総合体育館を主会場に開催されました。

2日間にわたり、会場では屋台村や物産展など様々なイベントが行われました。16日には全国から2048人が参加した、「きみまちニツ井マラソン」が開催され、沿道の声援を背に、ランナーがニツ井町を疾走しました。

JAからは、比内地鶏部会による焼き鳥販売や、新米あきたごまちの販売を行いました。また女性部ニツ井支部員が、走り終えたランナーに温かいスープを振る舞うなど、ともにフェスティバルを盛り上げました。

① 管内で2組が大賞に輝く ふるさと秋田農林水産大賞



▲ 担い手部門で受賞した工藤さん夫妻

地域農業をリードし、農業の模範となる優れた活動を実践している産地や経営体を表彰する、ふるさと秋田農林水産大賞が10月26日、秋田市で開かれました。管内からは、工藤巖さん・松子さん夫妻（能代市久喜沢）と、JAはまなす産直会（みょうが館）が、それぞれ大賞を受賞。また、大塚和浩さん（能代市河戸川）が秋田県指導農業士に認定されました。

以下は受賞者のコメントです。

<工藤さん夫妻>

「ねぎ部会長として産地の自立を目指し、生産者自ら品質検査を行う方法を取り入れました。それによって、組織の意識改革が進み、生産者が産地としての自覚を

再認識し、その責任の向上につながったと感じています。今回の受賞を、次の世代へより良い形で産地を継承するための、励みにしていきます。」

<JAはまなす産直会>

「今回の受賞は、これまで多くの方々からご協力を頂き、14年間頑張ってきたことが評価されたのだと感じています。皆様に感謝するとともに、今後も安全・安心な野菜作りを心掛け、食育活動や学校給食への供給、また地域の皆様とのふれあいを大切に、魅力ある直売所を目指してまいります。」

※写真は株式会社北羽新報社からの転載です



▲ 農山漁村活性化部門で受賞したJAはまなす産直会